

ドボク管理と電子納品

時代の変化と共に『物』の形は様々に変化していきます。我々の作成する『成果品』もその時代の変化と共に変わる物の一つであります。『紙から電子へ』今回は『電子納品』と、当社の取り組みについて紹介していきます。

CALS/EC

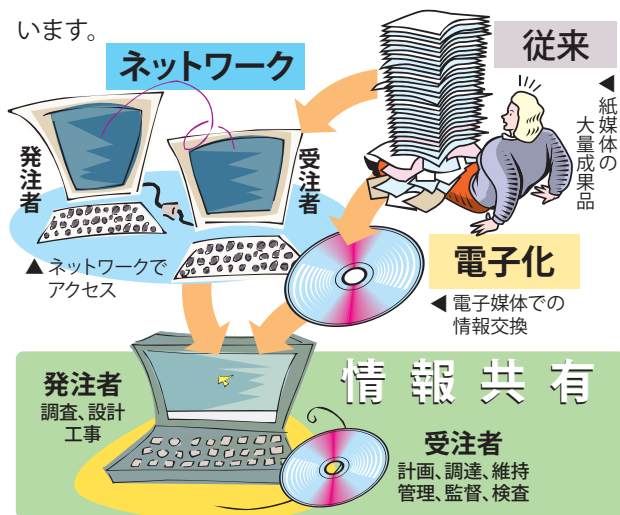
北海道開発局では、平成15年に電子入札の全面運用、平成16年には電子納品が全面運用されています。

北海道では、平成22年度にて工事と委託業務双方に電子入札及び、電子納品を全面運用しています。

そもそもCALS/ECの目的とは？

CALS/ECとは、「公共事業支援統合情報システム」の略称であり、従来は紙で交換されていた情報を電子化し、ネットワークによる情報の共有・有効活用を図り、生産性向上やコスト縮減等を実現するための取り組みです。

これにより、公共事業の企画、調査、計画、設計、調達、工事及び維持管理で発生する図面や書類、写真等の各情報を電子化し、ネットワークを利用して、効率的に情報を交換・共有・連携できる環境を創出することを目的としています。



当社の『電子納品』に対する取り組み

当社では、日々更新される電子納品情報に目を配り、常に最新情報とそれに対応する技術を身につけるべく、『委員会』を設立しています。委員会はCALS/ECインストラクターやSXF技術者といった有資格者を中心に情報分析を行い、各部門毎に必要となる技術情報を提供しています。また、社員のみならず、関連企業へ情報提供を行い、地域企業のベースアップや技術者育成等を目的とした取り組みも行っています。

委員会では主に以下のような取り組みを行っております。

●基準類の通知

主な活動内容は各機関より公表される、『電子納品要領』、『CAD製図基準』、『電子納品運用ガイドライン』、『工事完成図書の電子納品要領』等が更新される毎に、更新内容を把握し、社員および関連企業への通知を図り情報を共有します。

(注：各基準名は関係機関により異なります)

●講習の実施

当社では必要に応じ、社内講習を行っております。特に新入社員に対しては、CALS/ECの必要性や作業の流れを把握することにより、円滑に作業が行えるよう配慮しています。

講習内容はガイドラインに沿った形での講習はもちろん、実際の経験を基にしたより実務的な講習を心がけて実施しております。

●ソフト面での対応

電子納品に対応した成果物を作成するのは複雑



な基準等があり容易ではありません。

特に『CAD製図基準』は図面名やレイヤ、線種に至るまで複雑な構成となっており、我々コンサルタントにとって生命線とも言えるべき基準であります。

当社では以前からBLUE TREND及びAuto CADを使用しておりましたが、様々なニーズや、より幅広い電子データ形式にするため、新たにOCF検定CC3に対応しているV-nas CADを新規導入し、適切な業務対応を行えるよう対応しております。

※OCF:オープンCADフォーマット評議会の略称。

※CC3:conformance class 3の略称。

今後の展望

CALS/ECはアクションプログラムに沿った形で進行しており、現在はアクションプログラム2008が策定され平成22年度までの目標が立てられています。

また、今後はCADデータの3D化やGISへの対応など、より深いソフト面への知識も必要になってきます。

当社においてもこの流れに遅れを取らぬよう、『情報の収集』、『社内教育の充実』、『新基準(技術)への対応』を行い、これからも発注者要求に適切な対応を行っていく次第です。

